

よくあるご質問(FAQ) : Sound Devices MixPre-3(M)/6(M)/10T(M)

2019/03/11 更新

【 御質問 】

Q: MixPre-3 と MixPre-6 の違いは？

Q: MixPre-10T の特色は？

Q: MixPre の M シリーズとは？

Q: MixPre-6M でフィールドレコーディングできる？

Q: MixPre の電源について

Q: USB ポートについて

Q: タイムコードについて

Q: オーディオインターフェース

Q: フィジカルコントローラについて

Q: Bluetooth 通信について

Q: オーディオ入力について

Q: AMBISONICS について

Q: 録音ファイルについて

Q: 録音メディア

追記

【 回答 】

回答: MixPre-3 と MixPre-6 の違いは？**「インプット数」**

MixPre-3 は XLR 入力が 3 つ、最大録音トラック数は 5 です。MixPre-6 は XLR 入力が 4 つ、最大録音トラック数は 8 です。MixPre-6 は、XLR 用に Ch-1~4 の他に補助インプット用チャンネル Ch-5, Ch-6 があります。Ch-5,6 に Aux ステレオ入力を割り当てて、アイソレートトラックとして録音しつつ L&R バスにミックスすることができます。

「オーディオ・サンプルレート」

MixPre-6 は最高 192kHz ですが、MixPre-3 は最高 96kHz です。また、M シリーズや Music-Plugin によるプロジェクトでは最高 96kHz です。

「スターボタン」

MixPre-6 のフロントパネルには、スターボタンと呼ばれる【*】ボタンにユーザーがショートカット機能を割り当てることができます。デフォルトでは Ch5,6 のチャンネル・プロパティへアクセスできます。その他に、ソロ・ミュート画面へのショートカットや UNDO 機能へのショートカットをスターボタンに割り当てることができます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: MixPre-10T の特色は？**「電源」**

MixPre-10T,10M は背面のヒロセ DC 電源コネクタに給電する仕様です。（MixPre-3/6 のように、USB-C から電源供給できません。）

「バランス信号出力」

MixPre-3/6 は一眼レフにオーディオ信号を送るための Stereo Out(3.5mm)アンバランス出力しかありませんが、10T はバランス出力回路を備えます。この TA-3 コネクタ出力をプロオーディオ機材のバランス入力に接続することで、コモンモードノイズ除去の恩恵を受けることができます。最大レベルは MixPre3/6 と同じ +7.8dBu なので、-20dBFS 基準時は約-12dBu が出力されます。

MixPre-10T バランス出力についての資料は[こちら](#)

「スタートグルスイッチ」

左右に倒して*と**の2つのショートカット機能にアクセスでき、補助入力チャンネル Ch9,10 へのアクセス、ソロ・ミュート画面、UNDO 機能に加えて、トーン信号やスレートマイク機能などを自由に割り当てる事ができます。

「タイムコード」

MixPre-3/6 はタイムコード・ジェネレータを持ちませんが、10T は TC ジェネレータを内蔵しており、TC IN/OUT 用の 2 つの BNC コネクタを備えます。

「ワードクロック同期」

タイムコード用の IN/OUT の 2 つの BNC コネクタをそれぞれ別々に WordClock 用 IN/OUT に機能を変更することができます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: MixPre の M シリーズとは？**「Musician」**

モデル名の末尾にある M は Musician を意味します。M モデルはタイムコード関連のハードウェア機能が取り払われて、ミュージシャンの創作活動に特化した Music 機能を持たせています。

「Music Plugin」

MixPre-3, 6, 10T にミュージック・プラグインでアップグレード(有償)することで MixPre-3M, 6M, 10M それぞれと同じ機能を持たせることができます。(一度アップグレードすると元の状態に戻す(プラグインを外す)ことはできません。)ミュージック・プラグインを入れると、新規録音する前にプロジェクト・タイプ (Music Project か Audio Project) を選択できるようになります。過去に録音されたデータ (プロジェクト) をロードすると、新規録音はそのプロジェクトに保存されます。

「M シリーズのトラック数」

MixPre-3M, 6M, 10M のいずれも、録音トラック数は 12 トラックです。(M シリーズは L,R ミキシングバスを持ちますが、L,R トラックはありません。)この 12 トラックを用いてオーバーダビング、レンダリングを行うことができます。3M, 6M, 10M での大きな違いは、「同時に入力できるインプット数」と「フィジカル・フェーダーの数」です。

「MixPre-10M と 10T」

MixPre-10T との違いは以下です。

- 1) タイムコード機能なし。
- 2) TimeCode 用 BNC 機能 (WordClock 機能も含む) なし。
- 3) HDMI コネクター (カメラトリガーも含む) なし。
- 4) メーター画面が 1 ページ。
- 5) Input チャンネルリンクはステレオのみ。(マルチチャンネル・リンクできません)
- 6) WAV ファイルは Mono ファイルで録音。(レンダーはステレオ)
- 7) サンプリングレートは最高 96kHz。
- 8) AC 電源アダプターが標準付属。

「M シリーズのフェーダー」

MixPre-10M のフロントパネルには 8 つのフィジカル・ノブがあり、これらのノブで 12 トラック(チャンネル) のレベル調整を行うことができます。ノブ 1-4 は Ch 1-4 固定です。ノブ 5-8 はアサインナブル方式で、Ch 5-8 と Ch 9-12 を切替えて使用します。後半 (5-8) のフィジカル・ノブがどのチャンネルにアサインされているかを確認するには、液晶画面のマルチトラック・レベルメーターで白線の枠を見ると判別できます。アサイン変更するには、画面のレベルメーターにタッチしてください。

後半のフィジカル・ノブは、回転操作をしない限りチャンネル・レベルが変わることはありません。Ch 5-8 と Ch 9-12 の割り当てを画面にタッチして変更したとしても、ノブが回転されない限り、以前に調整したゲインが保持されています。保持されたゲインまでフィジカル・ノブを回転させて、保持ゲインとノブ位置が一致したときにレベル調整できるようになります。

(この機能は標準の MixPre-3,6,10T にはありません。)

MixPre-3M, 6M は、フィジカル・フェーダーの数がそれぞれ 3 つと 4 つになるので、画面の 12 tracks の中で操作できるブロックがそれぞれ 4 つと 3 つに分かれます。右図は、MixPre-6M のメーター画面です。

「デジタル・パッチベイ」

M シリーズは、チャンネルの Input ソースを画面設定から自由に変更できるので、楽器やヴォーカルマイクの録音トラックを変更するためにケーブルを抜差しする必要はありません。メーカーはこれをデジタル・パッチベイと呼びます。(この機能は標準の MixPre-3,6,10T にはありません。)

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: MixPre-6M でフィールドレコーディングできる？

価格の安い MixPre-6M に興味を持たれたかもしれませんが、フィールド・レコーダーとして使うにはいろいろと不便に感じるでしょう。また、MixPre-6 に Music プラグインを後から追加することはできませんが、その逆(MixPre-6M を MixPre-6 に改修する)はできません。

「最高サンプルレート」

MixPre-6M は 96kHz で、MixPre-6 は 192kHz です。

「録音ファイル」

M シリーズはオーバーダビングを前提にしており、録音するたびに古いテイクは再生できなくなり

ます。また、L&R ミックスの録音トラックがないのでリアルタイム録音できません。(レンダリングという手もありますが、ミックスダウンに実時間がかかります。)

「Gain 調整」

M シリーズはフィジカル・ノブが Fader 専用機能するので、Mic Trim を調整するためにその都度 Input 画面にアクセスしなければなりません。MixPre を Basic モードにすればゲインアクセスが容易になります。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: MixPre の電源について

バッテリーランタイムについての資料は[こちら](#)

「単三電池」

MixPre-3, 3M, 6, 6M には単三電池 4 本を装着できるバッテリースレッドが標準で付属します。10T と 10M には単三電池 8 本を装着できるバッテリースレッドが標準で付属します。単三電池用バッテリースレッドの代わりにオプションの MX-LMount を装着すれば、Sony L-type リチウムイオン充電電池を利用することもできます。

「外部電源ソース」

MixPre-3, 3M, 6, 6M は USB-C ポートに給電して使用できます。3M と 6M には AC アダプター (MX-PSU) が付属します。MixPre-3,6 は AC アダプターの代わりに専用 USB ケーブル (MX-USBY) が付属するので、コンピュータの USB ポートを外部電源ソースとして利用できます。(USB2.0 ポートは最大 500mA の仕様なので、消費電力の大きい MixPre シリーズは 2 つの USB ポートで給電する必要があります。) USB-C ポートに給電される電圧が足りないときは省電力モードで動作します。(USB-A や HDMI ポートの休止、ファンタム電圧供給チャンネル数が制限されます。)

「MixPre-10T, 10M」

MixPre-10, 10M はヒコセ 4pin コネクタが外部 DC 電源用にありますので、788T や 688 といった上位機種と同じ電源ソースをご利用いただけます。(MixPre-10, 10M は USB-C ポートに給電しても動作しません。)

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: USB ポートについて

「USB-C」

USB-C ポートは、コンピュータに接続してオーディオインターフェースやファイル転送に御利用いただけます。また、MixPre-3,3M,6,6M は外部電源ソースとしても御利用いただけます。

「USB-A」

市販の USB キーボード (Windows 用) を接続して、プロジェクト名やトラック名をタイプしたり、トランスポートコントロールのショートカットを操作したりできます。MixPre-10T はバックアップメディアとして USB メモリーを装着することができます。

「フィジカルコントローラ」

USB-A ポートにサードパーティ製フィジカルコントローラを接続できます。認識される製品 (型番) については最新のユーザーマニュアルを参照ください。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: タイムコードについて

MixPre-10T のみタイムコード・ジェネレータ機能を持ちます。Mixpre-3,6 はタイムコード・ジェネレータを持ちませんが、HDMI In か Aux In に入力した外部タイムコードを利用でき、録音した BWF ファイルのメタデータにタイムコードデータが記録されます。フレームレート設定は入力された TC 信号から自動的に識別されます。

回答: オーディオインターフェース

「Windows」

Windows10 の標準オーディオドライバーを利用する場合は、2in / 2out (最高 SF96kHz) のオーディオインターフェースとして動作します。ASIO ドライバーに対応したアプリケーション上で MixPre シリーズを利用する場合は、Sound Devices から無償で提供される ASIO ドライバーを Windows にインストールする必要があります。

「ASIO ドライバー」

ASIO に対応したアプリケーションを利用する場合はマルチチャンネルを利用できます。MixPre-3,3M は 5in/2out、MixPre-6,6M は 8in/4out、MixPre-10,10M は 12in/4out を利用できます。例えば、MixPre-10T の XLR や AUX に入力されたインプットチャンネル信号を、USB オーディオストリームで PC に送ることのできる最大数は 12 となります。

「Mac」

OS に標準搭載される core audio を利用して、MixPre シリーズはオーディオインターフェースとして動作します。

回答: フィジカルコントローラについて

USB-A ポートにサードパーティ製フィジカルコントローラを接続できます。認識される製品 (型番) については最新のユーザーマニュアルを参照ください。フィジカルコントローラからは、フェーダーレベルだけでなく、Input Gain, Pan, Track Arm、トランスポートコントロールなどをリモート操作できます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: Bluetooth 通信について

モバイルデバイスの iOS v8.0 以降、Android v5.0 以降に、フリーダウンロードできる Wingman アプリをインストールすると、Bluetooth 接続で MixPre-Series をリモートコントロールすることができます。レベルメーターの監視、REC,STOP のトランスポートコントロールが可能です。Wingman との通信はピアツーピアなので、1 台の Wingman に対し 1 台の MixPre-Series が通信できます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: オーディオ入力について

「インプットチャンネル」

フェーダーノブが押されると、インプットチャンネルのプロパティがディスプレイに表示されます。ここで、入力タイプ (Mic, Line, Aux, USB)、Pan、Phantom 48V などを設定できます。MixPre シリーズで XLR コンボジャックを備えているものは、6.3mm プラグを接続することができます。(6.3mm プラグにファンタム 48V はかかりません。)

「Aux 入力」

3.5mm ジャック (Aux/Mic In) にはアンバランスのステレオプラグでオーディオ信号を入力できます。市販のプラグインステレオマイクロフォンを接続する場合は AUX 設定を Mic に設定すると 2.7VDC がプラグに供給されます。3.5mm ステレオジャックに LTC タイムコード信号を入力することもできます。Tip か Ring のどちらかに入力し、Timecode 設定で Aux1 か 2 を選択すると

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: AMBISONICS について

AMBISONICS プラグインとは、3 次元空間の 360 度すべての音声を記録するもので、4 つのマイクカプセルが専用レイアウトされたマイクロフォンを利用します。MixPre では A-Format、B-Format に対応するだけでなく、収録中にリアルタイムなバイノーラル・モニターも可能です。

Sound Devices の Plugin Store から無料で購入し、MixPre-6 か MixPre-10T でアクティベーションできます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: 録音ファイルについて

MixPre (Audio モード) で録音すると、Poly 形式の WAV ファイルで録音されます。M シリーズ (または Music モード) で録音されたオーディオは、Mono 形式の WAV ファイルで録音されます。Poly 形式のファイルが DAW で正常にインポートできない場合は、Sound Devices のウェブページから提供されるフリーソフトの Wave Agent (Windows 用と Mac 用があります) を利用して Mono 形式に分割することができます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: 録音メディアについて

32GB までの SD カードは FAT32 でフォーマットされます。それより大きな容量のメディアは、exFAT でフォーマットされます。exFAT に録音されたファイルは GMT (グリニッジ標準時間) がメタデータに記録され、コンピュータでファイルにアクセスするときに GMT を参照してファイル管理表示します。

[【御質問リストにもどる】](#)

【 追記 】

現在の Firmware バージョンにて確認された仕様について追記します。 これらは将来の Firmware アップデートにより変更される場合がございます。

・ Pre-roll Time

Ver. 3.02 から Pre-roll Time 機能が追加されました。例えば 2 秒に設定すると、内蔵メモリーのオーディオデータを利用して、REC ボタンを押した時間より 2 秒さかのぼって記録される機能です。MixPre-3,6 でも利用できる機能ですが、TC Mode が Time Of Day に設定されているときのみ有効です。外部 TC 入力に設定すると Pre-roll Time オプションが Menu から消えてしまいます。(メーカーに確認したところ、これは仕様とのことです。) なお、MixPre-10T は、Pre-roll Time 機能と外部 TC 機能を同時に利用できます。

・ Custom モード

M シリーズを除く MixPre シリーズには、Basic モードと Advanced モードに加えて、機能カテゴリー別に Basic と Advanced を混在できる Custom モードもあります。カテゴリーは、Channel, Gain, Headphone, Record, Metadata, Outputs の 6 種です。

「Channel」

これを Advanced に設定すると、インプットチャンネルの Pan, Low Cut などのパラメータが細くなり、Phase, Delay, Linking オプションが増えます。また、ISOトラックの Solo, Track Arm が使用できます。

「Gain」

これを Advanced に設定すると、インプットチャンネルはフィジカル・ノブと Gain による 2 ステージ・コントロールになり、ISOトラックはプリ・フェーダーレベルで録音されます。また、Limiter オプション (On/Off) が System メニューに追加されます。

「Headphone」

これを Advanced に設定すると、インプットチャンネルに SOLO オプションが追加されます。また、モニターソースのオプション LR Stereo, USB1,2 に加えて、ユーザープリセットが設定できるようになります。

「Record」

これを Advanced に設定すると、L&R Gain, Sample Rate, bit depth, Rec L/R(linking), Pre-roll Time, Rec Trigger, Record Bells オプションが追加され、トラックにネームを入れられるようになります。

「Metadata」

これを Advanced に設定すると、以下の操作が可能となります。 1) テイクの UNDO 2) トラックネーム 3) ファイルのリネーム 4) notes

「Outputs」

これを Advanced に設定すると、Stereo Out (3.5mm ジャック) の機能拡張 (routing, gain) と、Tone オシレータ機能が有効になります。

[【御質問リストにもどる】](#)

MixPre の細かな設定に関する Q&A

- Q: ISOトラックを有効にする設定を知りたい。
A: Custom Setup で、Channel か Record を Advanced に設定します。
- Q: L&Rトラックを録音したくない。
A: Custom Setup で、Record を Advanced に設定し、Record オプションで、Rec L,R を “Off, Linked” に設定します。
- Q: ISOトラックの録音レベルをフィジカル・ノブで調整したい。
A: Custom Setup で、Gain を Advanced に設定します。
- Q: サンプルレートを変更したい。
A: Custom Setup で、Record を Advanced に設定します。（HDMI Timecode に同期したり、USB-C がコンピュータに接続されたりすると、外部機器のサンプルレートに優先的に同期します。）
- Q: HDMI タイムコードを認識できない。
A: MixPre が USB オーディオとして PC に認識されていると、HDMI タイムコードを受信できません。
- Q: REC トリガーとは何？
A: マイクロ HDMI で接続されたカメラからの Rec コマンドによる録音スタート機能に対応しています。Rec トリガーを出力できないカメラの場合、タイムコード出力信号の歩進を検知して録音スタートすることができます。（カメラを Free Run ではなく、Rec Run に設定する必要があります。）
- Q: トラック名前を入れたい。
A: フィジカル・ノブを押してインプット設定画面を出し、左上部をタップします。
- Q: L&R トラック名前を MixL や MixR から変えたい。
A: 録音テイクを確認する画面で、[nexus]テイクから編集できます。
- Q: UNDO とは何？
A: 録音テイクを確認する画面から、UNDO を実行するとその WAV ファイルが SD カードの UNDO フォルダに移動し、次に録音されるテイク番号が1つ戻ります。MixPre 本体からリドゥすることはできません。
- Q: テイクを “Trash” コマンドで削除したのに空き容量が増えない。
A: SD Card オプションから “Empty Trash” を実行できます。（UNDO の中身は消去されません）
- Q: WAV ファイルを Poly ではなく Mono で録音したい。（MixPre-3, 6, 10T）
A: MixPre (Audio モード)は Poly でしか録音できません。
- Q: 4GB サイズ以上の WAV ファイルを作りたい
A: 仕様により 4GB が上限サイズです。exFAT フォーマットされた大容量 SD（64GB 以上）でも、録音ファイルの上限は 4GB です。

[【御質問リストにもどる】](#)

End